

津波から避難するポイント

津波は地震発生後、あっという間にやってくる場合があります。海岸にいるときに強い地震や長い時間の揺れを感じたら、**津波警報の有無にかかわらず、一刻も早くその場を離れて、高台などの安全な場所に避難しましょう。**

津波から避難する4つのポイント

1 地震の揺れの程度で自ら判断しない

揺れがそれほどなくても津波が起きるケースは、過去にもしばしばありました。明治三陸地震(1896年)では、沿岸で震度3程度だったにもかかわらず、大津波が押し寄せています。津波の危険地域では小さい揺れでも、揺れを感じなくても、まずは避難を最優先にしましょう。

2 避難の際に車は使わない

原則として、**車で避難するのはやめましょ**う。東日本大震災の地震の直後、沿岸部各地では避難しようとする車で渋滞が発生。そのために津波にのみ込まれて命を落とした人が多数出ました。



3 てんでバラバラに逃げよう

東日本大震災では震災直後、沿岸地域に居住する家族を迎えに行き、津波に巻き込まれた方が少なくありません。

あらかじめ家族で避難行動を話し合っておき、それぞれがちゃんと避難するという信頼関係を築いておきましょう。

4 “遠く” よりも “高く” に

すでに浸水が始まってしまった場合などは、思うように避難できないことが予想されます。そんな場合は、**遠くよりも高い場所**、例えば近くの高いビルなどに逃げ込みましょう。津波避難タワーや津波避難ビルがあれば、そこに避難しましょう。

Point

津波避難タワーや津波避難ビルを知っておこう！

津波から身を守る大原則は「**高台に逃げる**」ことです。しかし、さまざまな理由で津波から身を守ることが難しい場合があります。そんなときは、緊急避難施設として津波避難タワーや津波避難ビルが選定されています。どこにあるのかなど、事前にチェックしておきましょう。

参照

磐田市津波避難タワー・津波避難ビル・津波高マップ



津波避難タワーや津波避難ビルが有効です！

磐田市に想定されている津波は、到達時間が短く避難に十分な時間がとれません。沿岸地域に高台がない磐田市にとって、有効な避難場所になります。

